

# 復興・財源は 支え合いでこそ 私たちと地球、明日の人類を救えー

レジュメ風もくじ 冒頭だけは、本文を全文掲載しています

## はじめに

東日本大震災の翌日、「原発が爆発し、津波が日本を飲み込む」映像(そのように見えた)に接し、人類の終わりに出会ったような暗い気持ちになりしばらく続きました。東京電力柏崎刈羽原発が建った場所のすぐ近くで生まれ育ち、とりわけ先の新潟中越沖地震での原発損傷に心痛めていた私への追い打ちでした。私のよく知っている方が、地震2日後に自死されましたが、同じような気持ちを強く抱かれたのかもしれませんが、幸い、私は、つらい気持ちを周りの人々と語り合うなかで精気を取り戻してきましたが、ほぼ3ヶ月後の6月5日、止めどなく涙が溢れることに出会いました。妻とともに出かけた長野県茅野市内「第48回 長円寺 花のコンサート」、マテー千佐子さんとその高校生の娘さんによる「母娘連弾のピアノの調べ」でのことでした。大震災の時に滞在されていたオーストリアで、皆さんが日本人と見るや温かい声をかけて下さったというお話のあとで、「幻想曲 さくらさくら」「ノクターン二題 ショパン」をお聞きしたときのことでした。大好きな映画ならともかく、音楽を聴いてこんなに止めどなく涙が流れることなど生まれて61年で初めてのことでした。そんな自分にびっくりするとともに、こんなにも大震災で心が傷ついていたのか、それが今癒されていっている、という実感がしました。

## 第1 押しつけか 支え合いか

そんな私が、4月中旬からほかのことは隅に置いて危機感を持って懸命に取組み、まる2ヶ月かけてまとめたものが、本論致す。菅首相が設置した「大震災復興構想会議」で、議長さんが検討テーマの柱であるべき原発損傷を議題から外そうとし、弱い者いじめの消費税増税をのっけから打ち出そうともしました。さらに同会議としても、まず日経連・経済同友会・日本商工会議所という財界トップ3の意見を聞き、そのあとで被災地を視察しました。しかも視察は数時間程度であり、とても被災者一人ひとりの声をじっくり聞く姿勢ではなかったようです。案の定、昨日6月25日に出された「復興への提言」では、住民同士の「つながり」を強調しつつ、「連帯」のために「基幹税」を増税すると明記されました。誰がみてもこれは、国民に不評の消費税増税を、震災復興のための「連帯」名目のもと、消費税法改正法の制定という強制力で押しつけようとするものです。

しかし、「連帯」「つながり」と国民への強制は果たして両立するものでしょうか。消費税増税については、いつもほぼ半数の国民が弱い者いじめ税であるとして反対していますが、その人たちにとっては、明らかに意に反する強制です。これでは国民は「支え合い」の気持ちになれるでしょうか。被災者にとっても、復興復興は一人ひとりにとって決して強制と受け取られるようなものであってはなりません。その点では、「提言」で述べられている集約化・民間企業導入を柱とした農林水産業の復興も、これまで必死に生きてきた一人ひとりの被災者を切り捨てる結果となる危険が大きいと思います。本当に復興・復興への国民の連帯と支え合いを求めるのであれば、あくまで被災者を先頭とする全国民の真の自主性・自発性を引き出すような魅力的な復興復興計画でなければならず、そのための資金計画も当然そうでなくてはならないのです。

他方、政府の「社会保障改革に関する集中検討会議」も6月2日、やはり「支え合い」のために消費税を

2015年度までに段階的に10%に引き上げることを柱とする「社会保障改革案」を出しました。さらに、社会保障費は全額消費税で賄うと言っていますので、消費税20%は覚悟せよということです。また、6月7日には、民主・自民など超党派の改憲派議員約100名が、賛同者200名を得て「憲法96条改正を目指す議員連盟」の設立総会を開きました。改憲案を国会で発議するための要件を「3分の2」から「2分の1」に減らして、国民の反対が強い憲法改正でもやりやすくするためです。このような一連の動きからみて、この国の為政者は、ほとんどの国民が持っている「大震災被災者のためになんとかしたい」との気持ちを逆手にとって、被災者を含む国民にその意に添わない政策を強制しようとしているということではないでしょうか。そのほとんどは、悪評濃かったこれまでの為政者の基本路線を踏襲・拡大するものになり、被災者も立ち上がれず、国民みんなもいっそう苦しめられることになることでしょう。

「押しつけか、支え合いか」、これが大震災後の現局面における、日本が選択すべき二つの道だと思います。後者こそが真に国民が望む新しい日本の建設に資するものだとの視点から、以下の諸点を、アンチテーゼとして打ち出したいと思います。ご検討いただくと幸いです。

## 第2 大震災が人類に示したもの

(1)地球は、そこに生きるものにとってまことに危険な天体

1000年に一度の巨大地震津波

福島第一原発損傷汚染は人災

(2)大災害の被害を最小限に食い止める姿勢が必要

びっくりと怒り 避難所に布団無し

今頃検討している場合か 二重ローン問題

GPS津波計 100億円を惜しむ政府

防衛費の4分の1 1.1兆円が防災費

地球上 30年間に自然災害で250万人死亡

軍事費138兆円 桁違いに少ない防災費

(3)人類存立の基盤である地球に危機が迫っていることを浮き彫りにした

地球温暖化防止 2100年までに地球の気温が最大6°C上昇

CO2を2050年までに1990年の値から80%削減する責務

核兵器・核実験と原発によって地球を汚染

原発は、核兵器と不即不離

・核兵器製造技術を急遽転用して造られたため基本的に安全性が脆弱

・通常兵器で攻撃されても放射能汚染が広がり、その点で「原発＝核兵器」になる

・核兵器の原料プルトニウムを次々に生産できる

・そのため、原発を保有すると核兵器保有の意図を疑われ、緊張悪化要因になる

・「核の平和利用」名目の原発推進により、民衆の核兵器拒否感を払拭させよう

・現在の人類には制御能力がなく、人類の存亡に関わる重大汚染を起こす

温暖化も放射能汚染も止める

決定的な どこでも地産地消 釜口水門に発電水車を造ろう

(4)私たちは気付いた、「支え合い」があって初めて自分・家族も守れることに

否定された「自己責任論」の世界  
人類は連帯し合ってこそ生きていける  
象徴である巨大原発がクライシス = 危機

### 第3 復旧復興と世直しの基盤となる「支え合い」社会

- (1) 縄文時代から 裏長屋と「ゆい」の江戸時代を経て現代まで
- (2) 「1000年の山古志」の世界 被災地立ち上がりの鍵 住民合意をどう支えるか
- (3) 日本列島津々浦々でも ご近所社会の再生を
- (4) ご近所社会ならでのシェア社会も なんでも一人一台から 共同所有共同利用へ
- (5) 国際的ご近所社会も大切に  
地域国際防災緊急支援体制の確立  
「日米同盟」より、国際的「ご近所社会」を  
領土紛争にも調停役として必要な地域共同体

### 第4 私たちと地球、明日の人類を救うための提案

- (1) 人類の連帯・共同の力で大震災被害を一刻も早く回復させる 責任者は東電だけではない
- (2) 復興資金を、できるだけ強制でなく支え合いと連帯の中で造り、現地の復旧を支える  
個人・団体・企業に対し、最大限の寄付を政府・著名人一体となって要請する  
・寄付した人びとについては、法人税法・所得税法に特例を設けて有利に扱う  
・原発導入を推進した多くの責任者から、自主的に償い金を拠出していただく  
・長期間にわたって少額の分割金を寄付していく形態も大いに推奨する  
・亡くなる場合に備えて、この特別会計あてに遺産を譲るとの遺言書を造ってもらう  
無利子国債を発行し、個人・団体・企業から自主的に大いに購入してもらう  
によっても不足する分については、貯め込み資金豊富な大企業に対し、  
償還金額が元金未満の国債の引き受けを義務づける
- (3) 人類の知恵と資力を、大災害・地球温暖化から人類の存続を守ることに中心的に用いる  
次の大災害による被害を最小限に食い止める  
当面、自衛隊の半数をレスキュー隊に全面改組し、専用の機材を揃え、日常不断に訓練することにより、災害緊急時に国の内外で活動できるようにする  
原発をできるだけ早期に全廃する方向を明確にしつつ、再生可能エネルギーと省エネによって  
CO2 を目標通りに削減し地球温暖化を防止する  
原発をすべて廃絶しても停電にはほとんどならないことをしっかり理解して
- (4) 儲け本位社会の基盤となっている土地私有制をなくして公有制に変える
- (5) 「車社会」を大胆に見直し、軽自動車と公共交通社会に
- (6) 大災害時に避難しやすい、若しくは避難するための公共交通手段を研究開発することに力を入れる

### 第5 日本国憲法の花開く新しい社会を

- (1) 前文「核時代における恐怖と欠乏から免れる」権利としての平和的生存権、9条、13(生命幸福追求権)・14条(法の下での平等)・25(生存権)・26(教育権)・27(勤労権)・29条(財産権)などが保障される

(2) 次世代にも11条・97条「将来の国民」にも憲法の人権が保障される。12条「不断の努力で保持を」

## 地球人類が共生できるつながり社会に

### 環境破壊と貧困・孤立のパーソナル社会を問うー

無数の商品に囲まれて

これでよいのでしょうか

生活のすべての面でつながりを

具体的なイメージは

### つながりは最大の戦争抑止力 「すわか文化村」から

- 1 NHKテレビ「無縁社会」などから
- 2 「すわか文化村」発足から一年余
- 3 なぜ、つながりを築くのか
- 4 戦争を止める最大の力